

30E-pm02

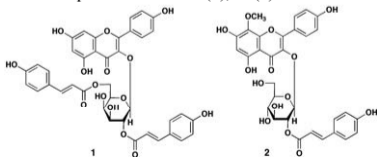
メディシナルフラワー研究：サザンカ (*Camellia sasanqua*) 花部の新規フラボノール配糖体と抗炎症作用

中村 誠宏¹, ○木村 優太¹, 藤本 勝好¹, 松本 崇宏¹, 梅山 美樹子¹, 宇野 薫¹, 三浦 朋子¹, 松田 久司¹, 村岡 修², 吉川 雅之¹ (¹京都薬大, ²近畿大薬)

【目的】ツバキ科植物サザンカ (*Camellia sasanqua*) は日本を原産とする常緑の低木であり、その種子から得られる油脂は「サザンカ油」と呼ばれ、軟膏基剤などとして用いられている。我々は、茶花、椿花、茶子木花などの *Camellia* 属植物花部の機能性成分の探索研究の一環として、サザンカ花部の含有成分の探索研究を行い、新規サポニン sasanquasaponin I-V を単離・同定するとともに、それらのサポニン成分がラット好塩基球白血球 (RBL-2H3) 細胞を用いた抗原刺激による脱顆粒抑制作用を有することを見出した。今回引き続き、サザンカ (*C. sasanqua*) 花部の低極性成分を精査した。

【結果および考察】京都府産サザンカ花部のメタノール抽出エキスを、酢酸エチル、*n*-ブタノールおよび水にて溶媒分配した。酢酸エチル移行部を順相シリカゲル、逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製した。その結果、フラボノール配糖体など 5 種の既知成分とともに 2 種のアシル化された新規フラボノール配糖体 sasanquafavonoside A (1), B (2) を単離した。

新規成分の化学構造は、NMR などの各種物理化学データの解析および加水分解の結果から決定した。得られた成分について、HL-60 由来好中球様細胞を用いた抗炎症作用の検討を行ったので合わせて報告する。



S. Nakamura et al., *Chem. Pharm. Bull.*, **58** (2010), in press.